

一般社団法人あいあいネット

# 年間活動報告

2021 年度(2021 年 7 月～2022 年 6 月)



一般社団法人あいあいネット

(いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク)

〒231-0003 横浜市中区北仲通 3-33 関内フューチャーセンター内

Tel 050-3754-5971 URL: <http://www.i-i-net.org/>

## 1. いりあい交流

### <インドネシアでの活動>

新型コロナの感染拡大により、2021年度もインドネシアとの実質的な交流活動は、休止状態となりました。インドネシア国内でも、島をまたいだ移動や、都市部から農村部への移動は自由にできる状況にはなく、オンラインにて、Kikigaki Indonesia 事務局長の Zaenal Abidin 氏や、前年度に聞き書き活動を学校活動に組み入れたいとの要請のあったソロの航空大学関係者と、将来的な可能性について話し合いをしました。

2022年度、インドネシアへの渡航がより緩和されたら、交流の拠点としてきたポゴールやパルを訪ね、現地の状況を直接みながら、ウィズ・コロナの時代に求められる活動のあり方や運営体制について関係者と協議を進める予定です。

### <日本国内での活動>

滋賀県長浜市余呉町中河内集落の共有林において、火野山ひろば、滋賀県立大学、京都先端技術大学（旧：京都学園大学）、地元協力者とともに焼畑を主軸とした取り組みを、2009年より継続しています。前年度同様に、新型コロナ感染拡大のため関係者のみで一連の作業に取り組むこととし、2021年7月に林野の伐開、8月に火入れを行い、11月に収穫を行いました。また、焼畑に限らず、地域内の森林の利用とその変遷について地域住民への聞き取りを進め、地域の暮らしにおける森との関わりについて掘り下げることを目指しました。

## 2. 西部バリ国立公園プロジェクト

前年度に引き続き、現地 NGO の IINET（あいあいネットの現地専門家らが結成した団体）による「西部バリ国立公園周辺村における、地域に根ざした環境教育と若者ファシリテーター育成を通じた『子どもたちが生きいきと活動するカンムリシロムク保護村』づくり」プロジェクトが実施され、あいあいネットは助成元の地球環境基金と IINET をつなぐ「代理人団体」として、現地での活動のフォローを行いました。

2年目の2021年も、現地では新型コロナ感染対策としての行動制限が続き、活動に遅れが生じていますが、「カンムリシロムク保護と環境保全における地元の知恵や文化」をテーマとした環境教育のシラバス作成が、周辺村の住民リーダー（環境ファシリテーター）らを中心として地域の小学校教員も加わって結成された作成委員会によって進められました。その結果、「指導要領」「教材」「実践ガイド」「練習問題」等からなるシラバス一式のドラフトが完成し、小学校での試行の準備が始まりました。

ムラヤ村クラタカン集落では、カンムリシロムクのモニタリングや村落エコツアーのガイドとなるちびっ子ファシリテーター14名が、自主学習グループ「学び舎スマートキッズ」から選ばれ、村で観察されるカンムリシロムクのモニタリングや村落エコツアーリズムについての学習も行いました。一方、大人たちの活動では、ギリマヌク村とムラヤ村において、「環境保全ファイターズ」グループが結成され、エカサリ村でもその準備が進みました。これらの大人たちは、廃棄物管理やリサイクルについて学ぶとともに、海岸のクリーンアップ活動も開始しています。

2021年度は、上記に加え、西バリの子どもたちと、徳之島および佐渡の子どもたちをオ

オンラインで繋いで経験交流・学びあいを行うプロジェクトへの「りそなアジア・オセアニア財団」からの助成(2022年4月～)が決定し、活動の準備を開始しました。

### 3. 地域に学ぶ研修事業

コロナ禍による水際対策が続き、海外からの研修員来日が制限されたため、本年度もJICA横浜課題別研修「住民主体のコミュニティ開発」はオンラインでの実施となりました。2021年10月～11月に、トンガ、ネパール、モルディブ、パレスチナ、ヨルダン、タンザニア、ニジェール、シエラレオネから各1名の計8名を対象として、前年度(2021年2月)に実施された遠隔研修とほぼ同様の形でZoomによるリアルタイム接続を通じた講義やワークショップと、録画された動画視聴とを組み合わせた研修を実施しました。今回は時差が最大で(トンガとシエラレオネの間)13時間あるため、一部のセッションを除いて2部(トンガ、ネパール、モルディブ、タンザニアと、ヨルダン、パレスチナ、ニジェール、シエラレオネ)に分けての実施となりました。

その後、前年度(2021年2月)と本年度(2022年10～11月)に実施された遠隔研修のPart2として、日本の地域づくりの現場で実践的に学ぶ来日研修が計画されていましたが、コロナ禍が収束しないため、これも遠隔研修に切り替えて、2022年2～3月に実施となりました。参加者はトンガ、マレーシア、ネパール、モルディブ、タンザニア、ヨルダン、ニジェール、シエラレオネから、計10名。これまで同研修の受け入れていただいていた鹿児島県奄美群島の徳之島を会場として、あいあいネットの担当者のみが来島し、オンラインで研修参加者たちとリアルタイムで繋いで、徳之島のコミュニティで活躍される方々と対話する「バーチャル・フィールドワーク」を試みました。

具体的に参加をお願いしたのは、徳之島で自然環境保護やエコガイド活動等に取り組むNPO「徳之島虹の会」の皆さんと、島で個性的な民泊を提供されている2軒のご家族、そして集落の魅力を掘り起こして紹介している地元団体のリーダーの方々です。事前をお願いして撮影された、地域を紹介する動画を再生しながら、説明をしていただき、それに対して研修員が質問し、対話する、という形式で実施しました。時差が大きいため、大部分は2部に分け、それぞれ2～3時間ずつのリアルタイムでのオンラインセッションを行いました。

対話で紹介されたのは、島の環境や伝統的な手法を地域資源として活かした農産物や塩・黒糖の生産、それら生産物を活用した島料理、その島料理を活用したコミュニティカフェ、神社や共同墓地の維持を通じたコミュニティのアイデンティティ継承、住民の出資による主体的な公民館建設の歴史と維持費支援という行政の協働、豊かな森という地域資源の保護に主体的に取り組んできた市民社会と行政の協働、エコツアーによる森の活用と人々の主体的な環境教育への取り組みなど、多岐にわたりました。研修員たちは、Part1で学んだコミュニティ・ファシリテーションの現地や手法を活用しながら、徳之島の方々との対話を通じて具体的な教訓を引き出し、説明することができるようになりました。日本の地域と世界各国とをオンラインで繋いで対話をする、という試みは、予想以上の成果を出すことができたと考えています。

#### 4. その他の活動と組織・広報

- JICA 研修の受け入れ等でお世話になった、横浜市保土ヶ谷区の「千丸台地区社会福祉協議会」にて、コロナ禍で影響を受けた協議会の活動の再始動に向けてワークショップを2回（2021年8月、2022年5月）実施した他、高齢者の方々向けのスマートフォン活用講座も実施しました。
- 長年の懸案であった、あいあいネットのウェブサイトを更新しました。
- 前年に引き続き、「持続可能な開発のための教育」推進会議（ESD-J）に当会役員の一仁がシニアアドバイザーとして参加しました。
- 前年に続いて、明治大学ガバナンス研究科によるマレーシア政府の公務員研修に協力予定でしたが、コロナ禍で延期されたため、次年度に持ち越しとなりました。